資料２－１

岩手県東日本大震災津波復興委員会
女性参画推進専門委員会の概要について

１　女性参画推進専門委員会及びなりわいワーキンググループ 合同現地調査の概要

(1)　実施日

平成27年10月30日(金)

(2)　調査先

①　［住田町］　　ＮＰＯ法人ｗｉｚ（理事　佐々木敦代 氏）

②　［陸前高田市］もじゃピン（村上美智子 氏）※さんりく未来産業起業促進事業採択者

③　［陸前高田市］ＮＰＯ法人まぁむたかた（代表理事　萩原直子 氏）

(3)　参加者

女性参画推進専門委員会委員及びなりわいワーキンググループ員　８名

(4)　調査先からの主な発言

［ｗｉｚ］

労働形態の幅がフルタイムか臨時職員しかなく、**シフト化や時短などの労働形態のバリエーションがあれば良い**と思う。

［もじゃぴん］

情報と人との繋がりは本当に大事だと思う。**経営について勉強でき、色々な情報が集められるという場所があったら良い**と思う。

［まぁむたかた］

子育てや介護などにより、地元の女性は、仕事に従事できる時間が限られている一方で、自分の持つスキルを生かせないか考えている。そういった**スキルが収入に繋がっていくような環境づくり**を行っていきたいと思っている。

(5)　委員等からの主な発言

［山屋委員］

一緒に現状や展望を整理する人、活動を支える人、活動を支援する人が必要であり、また、「女性が働きにくい」「地域に出にくい」などの地域性をカバーすることも必要。

［菅原委員長］

・　小さな地域において女性が何か行動することへの抵抗感がある中で、**男女共同参画をベースとした様々な支援が大切**なのだと改めて感じた。女性が活躍できる環境づくりをしないと、熱い想いが削られてしまう。

・　起業支援でも伴走支援でも、**受け手に様々なレベルがあるので、それらを意識したスキームづくりが必要**で、**個々の状況に合わせた支援**となるべき。

２　第４回女性参画推進専門委員会の概要

(1)　日時

平成27年12月21日(金)

(2)　出席者

委員12名（１名欠席）

(3)　内　容

①　講演「復興における男女共同参画と女性リーダーの役割」

早稲田大学ほか非常勤講師　皆川 満寿美　氏

②　女性参画推進専門委員会・なりわいＷＧ合同現地調査の概要

③　女性参画による被災地のなりわいの再生ワーキンググループ調査報告

④　「いわて男女共同参画プラン」改訂に係る意見募集について

⑤　「三陸復興・振興方策調査 調査報告骨子(案)」について

裏面へ続く→

(4)　委員からの主な発言

［平賀委員］

被災地域で積極的に活動する女性は非常に頑張っているが、**支える人が少ない**印象を受ける。育児や介護等で活動を続けられなくなる可能性もあることから、**周りの女性が活動を支えていけるしくみを行政が作る必要がある**のではないか。

［平賀委員］

活動団体にとっては、どれだけ情報を得られるかが重要である。**団体相互に多くの情報が得られ、共有できるような施策**を実施すべき。

［盛合委員］

一生懸命に活動している女性が多くの悩みを抱えてしまっている。**男性の意識改革に取り組むとともに、そういう女性の訴えに応える**ことも必要ではないか。

［村松委員］

被災地域以外では、震災は忘れられている現状を感じているが、そういった中にあっても、被災地域の子どもたちの情報は伝わっていた。被災地域とそうではない地域の**子どもたち同士の交流や、子どもたちが自身の体験を伝えることを、風化防止の観点からも積極的に行っていく**べき。

３　第５回女性参画推進専門委員会の概要

(1)　日時

平成28年３月16日（水）

(2)　出席者

委員10名（３名欠席）

(3)　内　容

①　第２期復興実施計画の施策体系・事業に基づく進捗状況について
②　平成28年度における復興関連予算の概要について
③　第３期復興実施計画の策定について
④　女性参画による被災地のなりわい再生ワーキンググループ調査報告
⑤　いわて男女共同参画プランの概要について

(4)　委員からの主な発言

［福田委員］

応急仮設住宅で生活している方々だけでなく、内陸へ避難されている方々も、慣れない土地で不自由な生活をしている。**被災地だけではなく、内陸に避難されている方々にも支援**の手を差し伸べていくべき。

［佐賀委員］

内陸から沿岸へ異動となる教員は、被災地域の子どもたちへの対応について少なからず不安を抱いている。そのような状況の中で、**家庭と教員の繋ぎ役としてスクールカウンセラーが果たす役割は大きい**ことから、継続して充分に配置してほしい。

［大沢委員］

被災地域の女性は、集まる場や話せる場を求めているが、そうした場の創出については積極的に行動に移せないことが多く、**誰かがリーダーシップを発揮して踏み出すことが重要**。

４　女性参画による被災地のなりわいの再生ワーキンググループ調査報告

被災地における女性の就労をめぐる課題に適切に対処し、さらには地元定着、Ｕ・Ｉターンを促進し、女性がいきいきと活躍できる環境づくりに向けた方策について検討することを目的として設置した、「女性参画による被災地のなりわいの再生ワーキンググループ」の調査報告を「資料２－２」のとおりまとめた。